



3つの経営方針

- 1 鉄道事業の使命である安全・安定・安心輸送の確保と、快適な旅客サービスの提供に向けて、今後も弛まぬ努力を続けていきます。
- 2 臨海副都心を支える基幹的公共交通機関として、沿線地域の活性化に貢献するとともに、東京圏における広域鉄道ネットワークを構成する路線として、利便性の更なる向上に努めていきます。
- 3 収益力を高めるとともに、社員一人ひとりの能力向上といきいきと働ける職場づくりに努め、企業として発展・成長を続けていきます。

当社経営を取り巻く環境

【人口動態】

- ・都心部への回帰や東京一極集中が当面は継続
- ・東京の人口は2035年まで増加し、2045年においても現在の水準維持の見込

【東京2020大会】

- ・当社沿線では多数の競技会場が存在



【社会経済情勢】

- ・臨海副都心の次世代拠点開発が予定
- ・インバウンドは当面は右肩上がりに増加
- ・我が国経済は内外需ともに堅調な推移・緩やかな景気回復が見込まれる

【技術革新】

- ・AI・IoT等の情報技術が飛躍的に進展
- ・自動運転等による新たな交通モードの出現

【乗車人員の堅調な推移と経営基盤の安定化】

- ・乗車人員は年々増加しており、経常黒字を継続

計画策定の目的と7つの経営目標

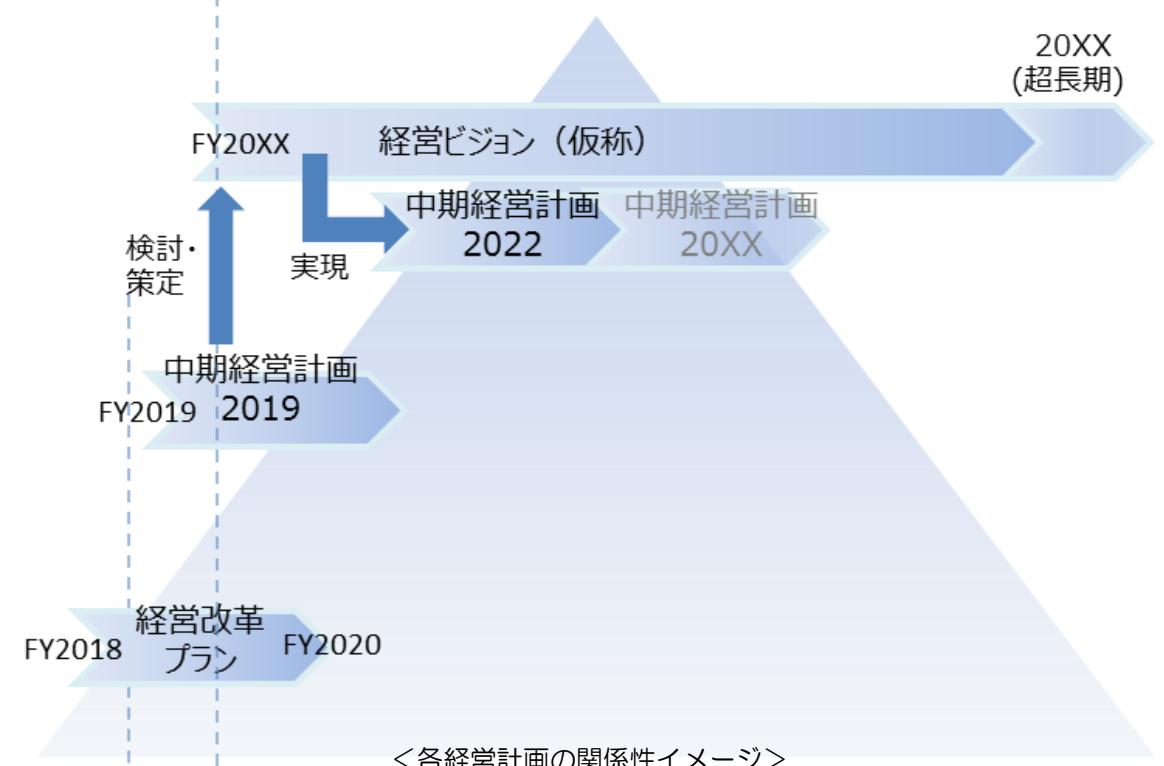
経営基盤の安定化が進み、経営の次なるステージへのシフトチェンジの時機を迎えつつある中、東京2020大会時の輸送を成功に導くとともに、その経験を飛躍の機会と捉え、次期の経営へと目指します

7つの経営目標

- 1 安全・安定・安心輸送の取組強化
- 2 お客様サービスの質的向上
- 3 営業収益の確保等による財務体質の健全化
- 4 沿線のバリューアップ
- 5 社員が主役となりいきいきと働ける職場づくり
- 6 東京2020大会への協働とその後を見据えた対応
- 7 将来の経営環境の変化を捉えた取組

(計画の位置づけ)

将来想定される経営環境の変化を捉えた長期的な経営戦略の方向性を示す経営ビジョン(上位計画)の策定を見据えながら、3か年のアクションプランとして、着実な事業遂行を図るものです。





目標の方向性

鉄道事業者の使命は、安全かつ安定した質の高い輸送サービスの提供です。輸送の安全確保の更なる徹底を最優先に、ホームドアの設置や災害及びテロ等への対策を強化するなど、全社一丸となり、安全・安定・安心輸送に取り組みます。

主な取組

(1) 安全・安定・安心輸送体制の充実

安全管理体制の強化

- 運輸安全マネジメント制度に基づく安全管理体制の継続的改善と安全を最優先とする意識の向上
- 訓練による危機対応能力の向上
- 「気づき・気がかり&ヒヤリ・ハット」の取組
- テロ等への対策の強化
- 人員の適正配置



設備の計画的な更新・改修（延命化）

- 電子連動装置、電力監視装置などの重要設備の計画的な更新
- 設備保守点検の確実な履行、建造物の健全度診断等の点検強化

ホームドア設置拡大の取組

- 大井町駅の運用開始（2019年度）
- 天王洲アイル駅、品川シーサイド駅へのホームドア導入（2021年度）
- その他の駅についても、ホーム構造等を考慮し整備を促進



車両の安全性の維持向上

- 車両の定期検査の確実な履行
- 新車両導入に向けた留置線の増設等の取組推進



(2) 地震等の災害に対する取組

災害に強い施設・設備の整備等

- 主要構造物や、施設・設備における甚大な被害につながる恐れがある脆弱性については、既に一定の対策を実施済
- 施設・設備の維持管理や補修・修繕を計画的に実施
- 想定される災害や被害想定の見直し等に応じ、必要な対策の検討等の不断の取組推進

異常時対応の向上

- お客さま向け震災ハンドブックを発行（2019年度）
※日本語版のほか、外国語版(英語、中国語、韓国語)も逐次作成
- 防災計画やBCP(事業継続計画)の見直し等の実施
- リスクマネジメント体制の強化



目標の方向性

だれでも、どこでも利用しやすく快適な施設の整備をし、インバウンド対策やバリアフリー・高齢者対策を推進します。

主な取組

(1) 多様なお客様が利用しやすく快適な施設整備

- 2019年度に全駅において駅案内サインのリニューアルを完了
- 新木場駅、東雲駅の旅客用化粧室リニューアル(2019年度)
⇒全駅のリニューアル完了
- 東京レポート駅、国際展示場駅の有人改札窓口のオープンカウンター化(2019年度)
⇒品川シーサイド駅、大井町駅の窓口拡大検討
- 新木場駅、東雲駅の駅照明器具のLED化(2019年度)
⇒全駅のLED化完了
- 運行情報アプリや施設維持管理の高度化等、IoT等新技術の活用



(2) インバウンド対策

- コンシェルジュの拡充
- IT技術を活用した案内サービス、駅務員への英会話応用研修
- 車内自動放送装置、多言語放送の導入
- 案内サインのリニューアル



(3) バリアフリー、高齢者対策の推進

- 東京レポート駅等、乗降客の多い駅のエレベーター増設
- 大井町駅のホームドア設置工事に伴う点字ブロック改修(2019年度)



(4) 顧客満足度の向上

- お客様の満足度調査の実施
- 満足度調査やお客様の声を踏まえたサービス水準向上の施策展開

(5) 混雑緩和対策

- 品川シーサイド駅の駅施設改良の取組
- 時差Biz(快適通勤ムーブメント)の取組

(6) 他社線との乗り換え利便性の向上等

- JRダイヤとの連携強化
- 東京モノレール天王洲アイル駅との乗り換え円滑化の推進





目標の方向性

開業時の初期投資による借入金の返済や経年劣化による設備の維持更新に計画的に取り組むためには、経営基盤の強化が必要です。そのため、安定した経常黒字確保を目標に収益力を高め、適宜・適切な支出や円滑な資金調達に取り組めます。

主な取組

(1) 営業収入の安定的な確保

- 臨海副都心まちづくり協議会との連携強化
- 沿線の魅力ある集客施設・観光施設とのコラボ
- 周辺企業とタイアップの企画乗車券発売
- 沿線イベントへの参加、協賛



(2) 関連事業の拡充

- 駅広告スペースなどを活用した広告収入増加への取組
- 周辺施設の入場券販売
- 外部の知見を活用した新事業の実施に向けた取組

(3) 適宜・適切な支出と円滑な資金調達への取組

- 事業実施前の再検討や経常的経費の見直し
- 省エネ対策の推進
- 長期的な設備投資に備えて円滑な資金調達の準備



目標の方向性

臨海副都心を支える基幹的公共交通機関として、沿線地域との連携を強化し、地域の活性化に貢献します。また、社会の一員としてCSR活動にも積極的に取り組めます。

主な取組

(1) 地域との連携強化

- 周辺企業等との連携による地域の活性化（再掲）
- 防災・防犯対策、災害時等における協力体制

(2) 企業としての社会的責任

- まちの環境事業活動への積極的参画
- コンプライアンス重視の企業風土形成や適正・公平な契約の確保等、コンプライアンスに対する取組

目標5

社員が主役となりいきいきと働ける職場づくり



目標の方向性

安全・安定・安心輸送の確保と質の高いお客さまサービスを提供していくため、社員一人ひとりの能力向上とともに人材育成や技術継承を図り、社員が仕事にやりがいを感じながら、明るくいきいきと働ける会社を目指します。

主な取組

(1) 人事制度と人員体制の強化

- 固有社員の指導職以上への登用
- 次代を担う社員の育成、研修の充実
- 人事制度の見直し
- 人員体制の強化



(2) 職場環境の整備

- 鉄道業務施設を恒久施設として整備
- 仮泊施設の建設
- 空調設備の更新
- 障がい者雇用の推進

目標6

東京2020大会への協働とその後を見据えた対応



目標の方向性

東京2020大会では、大変多くの国内外からの観客、大会関係者等の輸送需要が発生する見込です。りんかい線沿線において多数の競技が実施予定であることから、当社は主要な公共交通機関として最大の使命である安全・安定・安心輸送を確保するとともに、快適なお客さまサービスを提供していきます。また、大会後にその経験とノウハウを活かしてまいります。

主な取組

安全・安定・安心輸送対策（大会期間中の輸送を成功に導く取組）

- 臨時運転ダイヤ運行
- 適切な需要予測による駅要員配置と駅施設整備
- 大会期間及び大会前の環境変化に対応するための人員・体制整備
- 施設保守・アクセシビリティ対策
- テロ対策など安全対策の強化
- 大会のレガシー継承

目標7

将来の経営環境の変化を捉えた取組



当社は、沿線地域の開発等を背景に乗客数が年々増加し、経常損益の黒字を堅持するなど、経営基盤の安定化は着実に進んできています。経営の転換期を迎えつつある中、長期を見据えた経営等のあるべき姿としてのビジョンを検討していきます。